



社員教育へのご活用は
こちらから



第4週

品性を磨く道場

高い品性とは、人格の中心にあって、道徳的な心づかいと行いを積み重ねていくことによって醸成され、形づくられる卓越した道徳的能力のことです。品性が高いということは、多くの人が外から見た場合、人格が高いという判断につながるわけです。

高い品性は、例えば自分の学力・知識・技術・金銭などを、道徳的に正しい方向、自分の本当の幸せのために生かす力です。

直面する多くの問題を、自分の品性を高めるチャンスだと受け止めれば、ビジネスの場は自分の品性を磨く道場にもなり得るでしょう。そして、品性が高まることにより、いっそう信頼される人間へと成長することができるのです。



MEMO

メモ

第3週

人生の落とし穴

横浜市立大学名誉教授の伊藤 隆 二氏^{いとうりゅうじ}は、人間の価値を次のように述べています。

「穏やかで、誰にも思いやりを発揮し、マイペースで楽しく、その人らしく生きている人は、地位も権力も名声もないのに、多くの人たちにいつまでも慕われています。逆に地位や権力や財力や名声を求め、それにしがみついていた人は、それらを失ったとき、誰も寄ってこないことを知って愕然とするはず。人間の本当の値打ちは、それら付着物にあるのではなく、付着物をすっかり取り去ってしまったところにあるからです」

地位や権力などは大切なものです。しかし、それらを得ると大切なものを見失うことがあります。人生の落とし穴を明瞭に見つけていきたいものです。



MEMO

メモ

第2週

シンパシーと エンパシー

思いやりとは、ただ一時的な感情を指すものではありません。

健康な人が、病気に苦しんでいる人を見て“かわいそうだ”と思ったり、また、ある会社が倒産してしまい“気の毒だ”という思いを持ったり、さらには、強いものが弱いものに対して、幸せな人が不幸な人に対して持つ、優越感にも似たいっときの感情はシンパシー（同情）と呼ばれるものです。

思いやりとは、相手の苦しみや悲しみを自分自身の苦しみ、悲しみとして受け止めるエンパシー（共感）です。その苦しみや悲しみを解決するため、何らかの力になりたいと思いを巡らせた結果、その思いが態度や行動に表れ、相手の心に安心が生まれるのです。



MEMO

メモ

第1週

「遠慮」の中身

本来、道徳的であるはずの「遠慮」が誤解を生む元になったり、他人に迷惑を掛けたりし、揚げ句の果てに自分まで意気消沈してしまうことがあります。これではまるで「遠慮」が不道徳であるかのようです。何が、このような間違いを起す別れ道になったのでしょうか。

「遠慮」する気持ちが、本当に相手や周囲の幸せのために考えたことから発したのか、それとも、“自分はこんなに慎み深い”と誇示することで他者から高く評価されたいという自分本位の考えから出たものかの違いが、大きな隔たりのある結果を生んでしまうのです。

「遠慮」も、相手や周囲の立場で考え、行動することができてはじめて、道徳的といえるのです。



MEMO

メモ